

心 と 時 間

私たちは普段、過去・現在・未来という時間の流れのなかを生き、時間とは何か、などと立ち止まって考えることは少ない。私たちの心は、時間をどのように感じ、それどのように影響されて生きているのか。今回の連続講演会では、私たちの心と時間との関係について、心理学のさまざまな分野からアプローチし、時間、そして過去・現在・未来について議論を深めたい。 (企画：心理学部会)

- (1) 5月30日(金) 14:55~16:25
こころの中の時間のゆがみ
—認知心理学からみた時間— 田中章浩(東京女子大学・認知心理学)
- (2) 6月4日(水) 14:55~16:25
青年は今ここから未来をめざす
—青年期の時間的展望— 都筑 学(中央大学・発達心理学)
- (3) 6月16日(月) 16:35~18:05
心の痛みと時間 前川あさ美(東京女子大学・臨床心理学)
- (4) 6月23日(月) 16:35~18:05
離人症
—「現在という場所」から考える— 柴山雅俊(東京女子大学・精神病理学)
- (5) 7月4日(金) 14:55~16:25
将来予測と過去想起の社会心理学
—メンタル・タイムトラベル— 工藤恵理子(東京女子大学・社会心理学)

会場 東京女子大学

教室は 23201 教室になります。 聴講は無料です。

事前にお申し込みの必要はありません。当日直接会場にお越しください。

*大学イベント情報・学会ホームページにも掲載しております。

Access

JR 西荻窪駅北口(1番のりば)より吉祥寺駅行バスで約5分、「東京女子大前」下車。

JR 吉祥寺駅北口(3番のりば)より西荻窪駅行バスで約15分、「東京女子大前」下車。

西武新宿線上石神井駅南口より西荻窪駅行バスで約15分、「地蔵坂上」下車、徒歩5分。

[講師紹介]

田中章浩（たなか あきひろ） 東京女子大学現代教養学部准教授。認知心理学・認知科学が専門。コミュニケーションを支える知的なこころの仕組み、特に顔や声などの多感覚情報の統合過程と、その文化・言語・障害・加齢による変化に関心がある。昔から見えないものを見てみたいという気持ちが強く、視覚より聴覚、絵画より音楽、空間より時間、そして言葉より言葉にならないものに対する好奇心が旺盛である。主な著書・論文に『認知心理学ラボラトリー』弘文堂（2012）、『顔と声による情動の多感覚コミュニケーション』認知科学（2011）など。

都筑 学（つづき まなぶ） 中央大学文学部教授。博士（教育学）。専門は発達心理学。時間的展望の研究を一貫して行ってきた。環境移行に伴う時間的展望の変化プロセスを、縦断的研究によって検討している。主な著書に『高校生の進路選択と時間的展望』ナカニシヤ出版（2014）、『やさしい青年心理学』有斐閣（2012）、『今を生きる若者の人間的成長』中央大学出版部（2011）、『中学校から高校への学校移行と時間的展望：縦断的調査にもとづく検討』ナカニシヤ出版（2009）、『働くことの心理学』ミネルヴァ書房（2008）など。

前川あさ美（まえかわ あさみ） 東京女子大学現代教養学部教授。心の傷（トラウマ）についての研究を専門とし、虐待、いじめ、自然災害などに関わった子どもやその家族の理解と心理臨床的支援を行っている。また、発達障がいをかかえる子どもや大人が‘あるがまま’の姿を尊重されながら自立して社会で生きていくための支援もしている。主な単著に『つなぐ心と心理臨床』有斐閣（2007）、主な編著に『子どもの心への支援—協働・連携ワークブック』金子書房（2011）、『災害・危機と人間』新曜社（2013）など。

柴山雅俊（しばやま まさとし） 東京女子大学現代教養学部教授。精神科医。東京大学医学部卒業。専門は精神病理学。対人恐怖、摂食障害、境界性パーソナリティ障害から、しだいにヒステリーないしは解離性障害へと関心を向けるようになった。患者の主観的体験から診断や治療へと接近する道筋を研究している。主な単著に、『解離性障害—「うしろに誰かいる」の精神病理』ちくま新書（2007）、『解離の構造—私の変容と<むすび>の治療論』岩崎学術出版社（2010）、主な編著に『解離の病理—自己・世界・時代』岩崎学術出版社（2012）など。

工藤恵理子（くどう えりこ） 東京女子大学現代教養学部教授。専門は社会心理学。他の人の考えや心理状態をどのように人は推論しているのかということに関心がある。特に異なる立場、対立する立場にある人同士が相手の立場に立って考えることが必ずしもよい結果をもたらさないのはなぜか、またそのように考えることがその後の思考や行動にどのように影響するのかといったことの検討を目指している。主な著書・論文に『社会と感情』北大路書房（2010）、『現在の私によってつくられる過去の“私”』心理学評論（2008）など。